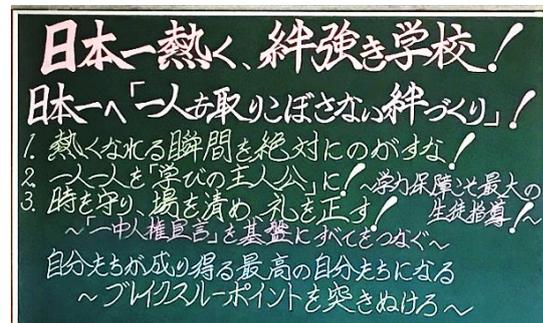


大分教育事務所訪問 20

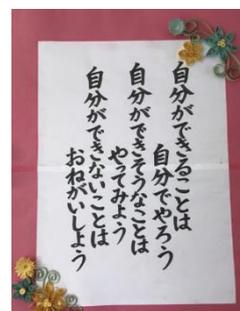
津久見市立第一中学校から学ぶ



学校の教育目標「ふるさとを愛し、主体的・協働的に学び行動する一中生」を育成するために、目指す学校像を「日本一熱く、絆強い学校!」とし、生徒に「学びの『基礎力』の育成【A 学力】」「学びの『活用力』の育成【B 学力】」「ふるさとを基盤とした志力と絆力【C 学力】」を付けるため、班を基盤とした絆づくりに取り組んでいます。

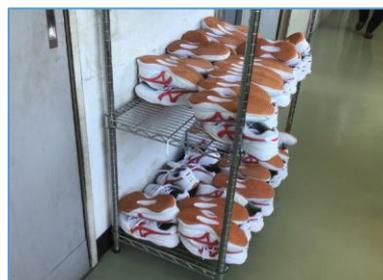
学校経営から学ぶ

校舎内には、校長先生や各主任の思い、また、生徒達が作った「一人権宣言」「学習規律」が掲示されており、「一人も取りこぼさない絆づくり」の強い思いが伝わります。また、教室には、「班の目標」があり、帰りの学活の時間を20分保証することで、生徒に日々の成長と課題を振り返らせています。さらに、生徒一人ひとりの「1年後になりたい自分」が大きく掲示されており、生徒の揺るぎない決意と共に教職員も「このような生徒に育てる!それぞれの夢を叶えてみせる!」



というキャリア教育の視点で学級経営がなされていると感じました。

今後は、取組指標の中に短期で検証ができそうなものは期間を決めて(2週間~1ヶ月)集中して行うことで、教職員も生徒もより成長を感じることができ、達成した目標は廃止したり、課題のあった目標はより焦点化して取り組む、短期PDCAサイクルを取り入れることで、取組指標の質が次第に高いものとなることでしょう。



NO.108 2021年6月 津久見市立第一中学校

自律力
 自己中心でなく、相手や周りを考えて行動する。



NO.111 2021年6月 津久見市立第一中学校

夢と志力
 共に夢を叶えるために、共に努力を継続する。

授業から学ぶ

多くの授業で、班における学び合いが行われており、特に3年生の英語では自然とペアで学び合う等「一人も取りこぼさない」授業を生徒が意識していました。

今後は「ふりかえり」で生徒がどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして指導案に明記することで、「めあて」との連動や評価規準がより明確になります。また「ふりかえり」の姿を共有することで、教科の壁を越えた研修ができ、授業力が向上すると思いました。



NO.109 2021年6月 津久見市立第一中学校

絆力
 お互いの考えを尊重しながら学び合うから、共に伸びる。



NO.110 2021年6月 津久見市立第一中学校

実践力
 数学の知識だけでなく、話し方、笑顔等、これまで学んだことを活かしながら説明する。